

楽浪・帯方郡磚室墓の再検討

磚室墓の分類・編年・および諸問題の考察

A Re-examination of Brick Chamber Tombs in the Nangnang and Daebang
Commanderies: A Study of the Classifications and Chronology of Brick
Chamber Tombs and Issues

高久健二

TAKAKU Kenji

はじめに

① 磚室墓の分類と編年

② 磚併用木槨墓と磚室墓の関係について

③ 磚室墓・石材天井磚室墓・横穴式石室墓の関係について

④ 磚室墓の系譜

⑤ 磚室墓の出現と消滅の背景

おわりに

【論文要旨】

朝鮮民主主義人民共和国の平壤・黄海道地域に分布する楽浪・帯方郡の磚室墓について、型式分類と編年を行い、関連墓制との関係、系譜、および出現・消滅の背景について考察した。その結果、楽浪磚室墓の主流をなす穹窿式磚天井単室磚室墓については、四型式に分類・編年し、実年代を推定した。さらに、諸属性の共有関係からその他の磚室墓との併行関係を明らかにした。これらの変遷過程をみると、穹窿式磚天井単室磚室墓ⅠBⅡ型式が成立・普及する2世紀後葉～3世紀前葉に大きな画期があり、その背景としては公孫氏による楽浪郡の支配と帯方郡の分置を想定した。これらの系譜については、中国東北における漢墓資料との比較検討の結果、典型的な穹窿式磚天井磚室墓は、とくに遼東半島とのつながりが強いことを指摘した。

磚併用木槨墓については、木槨墓から磚室墓へと変化する過渡的な墓制ではなく、磚室墓の要素が木槨墓に導入された墓制であることを指摘した。これに基づいて磚併用木槨墓が造営された1世紀後葉～2世紀前葉に、すでに磚室墓が出現していたのではないかと仮説を提示した。

石材天井磚室墓と横穴式石室墓については、いずれも穹窿式磚天井磚室墓と併行して造営された墓制であり、とくに石材天井磚室墓は磚天井磚室墓から横穴式石室墓への過渡的な墓制ではなく、横穴式石室墓の天井形態が磚天井磚室墓に導入されたものと考えた。さらに、これまで不明確であった楽浪・帯方郡末期～滅亡後の状況について、穹窿式磚天井磚室墓・石材天井磚室墓・横穴式石室墓の分布状況や銘文資料などから検討した結果、3世紀中葉以降は平壤地域から黄海道地域へ在地豪族が移動し、これに代わって平壤地域へ新興勢力が流入しており、郡県体制が大きく変容していった時期であることを明らかにした。

【キーワード】 楽浪郡、帯方郡、磚室墓、横穴式石室